

第 243 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 7 年 9 月 30 日（火） 14:00～15:34

場 所：浜田市役所本庁 4 階講堂 AB

出席者：岡田教育長 杉野本委員 倉本委員 浅津委員 三浦委員

事務局 草刈部長 藤井課長 龍河担当課長 山口課長 永田担当課長（欠席）

石橋室長 松井課長 山本課長 鎌原室長

書記：日ノ原係長 川村主任主事

議事

1 教育長報告

2 議題

(1) 教育委員会自己点検・評価について（資料 1）

(2) 浜田市教育委員会ボランティア表彰について（資料 2）

(3) 浜田市立小中学校における医療的ケア実施に関するガイドラインについて（資料 3）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

(1) その他

1 教育長報告

岡田教育長

それでは皆さん、本日はお集まりいただき、ありがとうございます。午前中の小学校訪問に続いての長丁場になるが、よろしくお願ひする。

ここで新しく教育委員になられた三浦委員より、最初に少し自己紹介、ご挨拶をお願いしたいと思う。

三浦委員

失礼します。この度から教育委員をさせていただくことになった三浦と申します。今は、メインの仕事は保育所で所長をしているが、そういう幼児教育のところの絡みや、自分の子どもも小学校 5 年生が一番下で 10 歳ということもあり、まだまだ浜田市の教育委員会にいろいろとお世話になるような状況でもあるため、今後ともよろしくお願ひしたいと思う。

岡田教育長

三浦委員には、岡山令子前教育委員の後任ということで、本日から岡山委員の残任期間の 11 月 18 日までと、それから議会の方でその後、新しく 4 年間の教育委員の任期をお務めいただくとい

うことで、同意をいただいている。

よろしくお願ひする。

それでは、私のこのひと月の報告をさせていただきたいと思う。

① 8月22日（金）故益井俊雄氏ご遺族による寄附贈呈式（庁議室）

8月22日に、故益井俊雄氏のご遺族による寄附の贈呈式があった。これは、高校生の芸術文化やスポーツ活動を支援する月額3万円の給付型の奨学金、それから短期の海外留学の経費を一部助成する上限20万円の奨学金、この原資として、故益井俊雄氏のご遺族から1億2,000万円、浜田市が寄附を受けたものであり、その贈呈式がこの日にあった。この奨学金制度の詳細については、12月の議会で提案をする予定で、今作業を進めているところである。

② 9月1日（月）9月議会開会（提案説明）・全員協議会

9月1日に9月議会が開会した。今月29日に閉会しているが、一般質問の中で、幼小連携や子どもの声でつくる授業に向けた授業改善という質問や雷対応などについて質問があった。

教育委員会関係の補正予算では、陸上競技場の記録処理システムのデジタル化経費を計上しており、いずれも無事可決されたということである。

③ 9月6日（土）浜田市戦没者追悼式（市総合福祉センター）

9月6日に戦没者追悼式があった。今年は終戦80年の節目の年であり、広島の原爆記念日に併せて開催された平和学習の集いに、浜田から児童生徒13名を派遣している。追悼式の会場には、参加した子どもの感想文を掲出し、更に参加者を代表して、2名の児童生徒が感想文をその場で朗読した。遺族者会の方から、歴史を子どもたちに語り継ぐという具体的な取組にとてもらったと非常に喜ばれた。改めて、この平和学習という取組については、継承していくかなければならないという思いを強くしたところであった。

④ 9月6日（土）地域活性学会基調講演・研究大会シンポジウム（県立大学）

同じく、9月6日に地域活性学会の基調講演と研究大会のシンポジウムがあった。この基調講演は、明治大学の農学部の小田切教授が、「にぎやかな過疎をつくる」というテーマで講演されたものであった。

その後、県内の市町村の首長から、「わがまち一押しの施策」について、その発表と意見交換がされた。定住に繋がる取組という切り口であったが、その中で津和野町の高校留学の活動が、やはり地域の活性化に役立っているということや川本町の女子野球で繋がるプロジェクトなど、教育に関する活動も紹介されており、教育活動はやはり充実拡充していくことというのは、その地域の賑わいや、場合によっては定住に繋がっていくという側面もあるのだということを改めて感じている。

⑤ 9月24日（水）校長会教育条件要望（教育委員室）

次に9月24日だが、浜田市の校長会から教育条件の要望を受けた。初めに、教育委員会が教育環境整備に非常に力を入れているということに対して、感謝の言葉をいただいた。その上で、特別教室であるとか、体育館のエアコンの設置、それから可能な部活動から地域展開を進めるということなどについての要望を受けており、それらの現状などについても情報交換をした。内容を精査して、できるところから対応していきたいと考えている。

以上が、このひと月の主な活動報告になるが、ご質問等はあるか。

各委員

特になし。

2 議題

（1）教育委員会自己点検・評価について（資料1）

岡田教育長

最初に教育委員会の自己点検・評価についてだが、事務局から説明をお願いする。

日ノ原係長

では、お手元の方に事前に送付させていただいた報告書（案）については、令和6年度の取組について評価をお願いしたいものである。流れとしては、お手元にある報告書について、本日、委員方からご意見、ご質問等をいただき、いただいたご意見を受け、また、各課において修正した報告書を、後日、再度委員方に送付させていただきたいと考えている。

送付した報告書を最終的にご確認いただき、ご了承いただければ、その後、議会に報告する予定としている。

今回の報告書の内容としては、令和4年度からの教育振興計画の計画期間の3年目になっている。事前にお目通しをしていただいていると思うが、今回グループごとに区切って審議をいただけ

岡田教育長

ればと思うため、よろしくお願ひする。

それでは、お手元の報告書に沿って少し中身を見ていきたいと思っている。まず、表紙の裏面を見ていただきたいが、ここの自己点検・評価に当たってという記述の、中ほどよりやや下を見ていただきたい。この点検及び評価に関するここというのは、教育委員会自らが管理・執行する事務として位置付けづけられており、その結果を議会に提出し、公表するということが義務づけられているものである。従って、今日慎重に中身をご検討いただいて、この報告書を最終的にまとめていきたいと思っている。

それから、次のページに目次が記載してあるが、この自己点検・評価項目というのは、項目が全部で 50 あるため、これから順次確認作業をしていきたいと思っている。

それでは、早速だが 3 ページをお開きいただきたい。まず、この自己点検・評価の総評についてだが、浜田市の教育振興計画には 5 本の施策の柱というものを定めている。この図の下の部分に、それぞれ 5 つの柱がある。この柱ごとに、まず総評をさせていただき、その個別の項目についてご意見を頂戴したいということである。

次のページ、4 ページから 6 ページにかけてが、それぞれの柱ごとの総評になっているため、まずここをご確認いただきたいと思う。

学校教育の充実の総評に関して、委員方、何かお気づきのことがあれば、お話をいただければと思うが、いかがか。

特になし。

ないようであれば、続いて、家庭教育支援の推進の総評について、何かお気づきのことがあればお願ひする。

特になし。

それでは、3 番目の社会教育の推進の部分で何かあればお願ひする。

特になし。

では 4 点目、生涯スポーツの振興の部分についてはいかがか。

特になし。

では最後に 5 点目、歴史・文化の伝承と創造についていかがか。

特になし。

では、一応今、最初に見ていただいた総評については、特段ご意見がないため、これから個別なところを見ていき、その結果と

して、もし加筆修正する必要がでた時には、最後にまたご意見を頂戴したいと思う。

では、個別に見ていきたいと思う。8 ページをご覧いただきたい。ここからは、学校教育の充実という 1 番目の柱の中で、主要施策として生きる力の育成、これを実現するための項目立てがしてある。それで、この生きる力の育成というのが、20 ページにわたるまで 8 項目あるが、この全体を通して、もしご指摘されことあればお伺いしたいと思う。No.1 から No.8 までのところで、何か気づいたことがあればお知らせいただきたい。

浅津委員

16、17 ページのところだが、教職員の働き方改革のところで、部活動の地域移行について、令和 6 年度の目標と実績が上がっている。これは、部活動の地域移行は教職員の働き方改革が目的で、少し飛ぶが、68、69 ページに、石正美術館で部活動に代わる課外活動の支援を行っているという内容が入っている。例えば、その前の 64、65 ページの石央文化ホールの自己点検のところもあるが、例えば、石央文化ホールもとてもいい立地であり、同じような取組ができるのではないかと思った。この評価が、次年度や次々年度の目標に反映されると思うため、石央文化ホールの評価、育成として部活動支援や民間団体との連携や利活用等も入れてはどうかと思った。随分先のところと関わってくるが、いかがか。石央文化ホールにそういう育成事業として、評価のところに加えることはできないか。

岡田教育長

今のは、16 ページの方ではなくて、部活動の働き方改革の中で、部活動に関するフォローを現在されている石正美術館と石央文化ホールのことか。

浅津委員

今されているのが、石正美術館である。石央文化ホールはそういったことはされていないが、立地もいいため、今後、石央文化ホールも何ができるかと色々と探っておられる部分があり、例えばそういう可能性を探っていくようなことを評価のところに加えるというのはいかがか。

岡田教育長

この件について、学校教育課から何かあるか。

山口課長

石央文化ホールのことであるため、なかなか答えにくいが、石央文化ホールで具体的にどういった活動がされるかというのが、ちょっとイメージできない。場所として、今、色々な競技団体や文化団体にアンケートを実施し、受け皿として当たっているところであるため、そういう団体として、今後石央文化ホールを拠

点にしていただければとは思うが、ただそこで、石央文化ホールさん、具体的には文化振興事業団になろうかと思うが、そこがどのように検討されているかというところもあるため、そこは担当課の意見を踏まえて、実際していただくのは、うちの方としては、いいと思う。

山本課長

確かにおっしゃるとおり、立地としては、市内の中心地にあり、活用しやすい場所にあるのではないかと思う。今その地域移行については、文化団体やスポーツ団体にそういう地域移行に協力できるかどうかという、まずそこの調査を行っており、それを見ながらでもいいと思うため、現段階でそこに向かうというのは、ちょっと時期尚早かなという感じは担当として思う。

承知した。

部活動の受け皿となっていただける色々な組織であり、団体であり、それが石央文化ホールの可能性があるのではないかというご指摘だったと思う。これは令和6年度の評価をしているものであり、今、担当から回答があったのは、そういう受け皿についてアンケート調査をしているため、その結果を踏まえて、今後の展開としては考えていきたいということであった。そのため、場合によっては、令和7年度の振り返りのところに入る可能性がある。

現段階では、まだ結果がわからないため、令和6年度については、評価としてはそこに上げるのは難しいと思う。

ただ、そういう団体が、今後、部活動の受け皿としての在りようも考えたいという団体がおられるという情報提供もあったため、これについては、少しその辺も意識をしながら、これから部活動の在りようというのを考えていく必要があると思う。

そういったことでよろしいか。

ありがとうございます。

その他いかがか。

今の話で、私が浜田市教育文化振興事業団の方と話したことがあり、石正美術館が三隅中学校に隣接されているが、三隅中学校の教員数が減り、美術の先生がおられなくなったということもあり、美術部がなかなか活動できないという話の中で、たまたま隣にある石正美術館には学芸員の方がおられ、それではということで、週に1回でも2回でもという話が元々あり、石正美術館が受入れをというか、そういう活動をしましょうということができたと聞いた。私も今まったく同じような話をしたことがあり、石央文

浅津委員

岡田教育長

山本課長

浅津委員

岡田教育長

三浦委員

化ホールはそういうのはないのかという話をした時に、今、浜田市内の方は三隅中学校と状況が違い、美術の先生がおられたり美術を教える方がいるため、そこまで困っていないという言い方であったか定かではないが、そういうのも影響して、まず困っている三隅で石正美術館がという話がスタートだと聞いた。

三隅中学校でのことが良い前例になり、他の所でも展開できるらしいと思う。

三隅中学校は、美術の時間がやはり規模によって、美術の先生を一人配置できない時に、いくつかの学校を掛け持ちで美術を見ていただく先生に入ってもらっている。しかし、その先生だけだと部活動指導までなかなかしづらいため、その部分を石正美術館からフォローしていただいているという事例だと思う。

多くの人のそういった力を借りていかなければ、なかなか部活動移行はできないため、そういった事例なども参考にする必要はあると思う。

補足だが、今、三浦委員が言われたとおり、石正美術館はそういう経過で部活動の補完というか、部活動に代わって教室のような感じで、学芸員がいるから教えることができる。ただ、一方で石央文化ホールは、学芸員は配置されていないため、部活動の地域移行で場所として協力はできるが、そこで教えることは現状難しいため、そこはご理解いただきたい。

承知した。

では、その他のところでいかがか。

今の、16、17 ページのところで出た話だが、そこで私も気になったところが一つある。中学校の実績の 4 番のところで、陸上部が合同練習を 12 回実施したということが書いてある。実際に、この部活の合同練習というかたちでやっているのは、陸上部だけだったのかもしれないが、例えば、部活動同士で、ある中学校の野球部と別の中学校の野球部が練習試合をするというのは通常、今まであったと思うが、人数がそれぞれ少ないと合同練習をしましようというのが、どうも学校によっては、私の知っている中で、令和 6 年度がどうだったかわからないが、バスケットボール部が、三隅中学校と旭中学校だったか浜田東中学校等と合同で練習をやっているのも聞いて、大々的にやっているというのがここで実績として上がっているが、そういう何か実は小さい合同みたいなのが、もし隠れているのであれば、そういうのもどんどん実

山口課長

績として入れてもらった方がいいのではないかと少し思った。

三浦委員
岡田教育長

ここに記載させていただいたのは、今、三浦委員がおっしゃったのは、各学校の先生がそれぞれ引率して、実質、各校単独でやる時と先生方の拘束時間と人数は変わらない。ただ、今回のこの陸上部は、市内全校、要はどこかの学校の顧問が一人について、あとは地域指導者、部活動指導員を入れて、教員が全校出なくていいのかたちで実施している。結果として、本来休むべき陸上部の先生が地域の指導者で入った場合も、結果としてはあるかもしれないが、教員が一人で全校の部活を見るということで、実稼働は減っているということで、通常の合同の練習とは少し異なっている。

承知した。

働き方改革の面からの実績が上がったものとして、ここでは、このことだけを記載したということであった。

三浦委員

その他いかがか。

10 ページの、幼児教育センターの設置のところである。実績のところに、幼児教育センターアドバイザーが色々と各市内の幼児教育施設に研修などに派遣ということで、この 29 施設分の 21 施設ということで、実績が上がっている。私も幼児教育施設の方にいるため、幼児教育センターとの絡みも色々あるが、数字がどうしても実績ということで出てはくるが、イメージとして、数字を追いかけて過ぎてないかというのは少し気になったようなところがある。子どもを語る会等も何回開催延べ何十人ということはあるが、幼児教育施設とのコミュニケーションをしっかり取りながら、こういうことがもっと深まっていけばいいと思う。イメージとして数字にこだわりすぎてないかというところを少し感じところがあるため、そこをひと言、言わせていただいた。

岡田教育長
龍河担当課長

実績のところで、数字以外で何か表現するということはどうか。ありがとうございます。

岡田教育長

実績としては、数値での報告がしやすいというのもあり、指標にもなっていたため、件数や参加した人数を上げさせていただいたが、内容的な実績、感想や効果や成果、そういういったものを入れることができるため、数字にこだわりすぎているわけではないが、追記というかたちで入れることは可能である。そのようなことでよろしいか。

今、そういうご指摘もあったため、少し追記で膨らませるよう

	なことを考えてもらえたと思う。
龍河担当課長	ありがとうございます。
岡田教育長	その他いかがか。
各委員	特になし。
岡田教育長	では、もし言い残したことがあれば最後に確認したいと思う。
	続いて 22 ページ、同じく学校教育の充実の中で、ここは一人一人を大切にする教育の推進についての項目となっている。それから、あわせて次に食育の関係の事業も出てくるため、この 22 ページから 32 ページのNo.15 にかかる部分について、もしお気づきの点があればお伺いしたいと思う。
浅津委員	22 ページから 32 ページまでのところで、何かあるか。 28、29 ページの食育推進事業のところだが、評価のところで、残菜を減らすための取組として、食育授業と家庭への啓発をして主食提供量の検討ということが書いてあるが、メニューの検討というのもあってもいいのではないかと思う。メニューによって残菜の量が変わってくると思うため、残菜が多い日のメニューを調べて検討してみるとか、そういうものがあってもいいかと思うが、どうか。
藤井課長	言われるとおり、メニューによって残菜がすごく違っていて、具体的に言うと和食の残菜がすごく多い。洋食の時は、とても残菜が少ない。これは、ずっと昔から顕著らしく、栄養教諭もその辺はすごく気にしていて、例えば、カレーとかハンバーグとか、そういうメニューにするとすごく少なくなるが、その一方で、魚やみそ汁や酢の物、和え物などを減らすというのはどうなのかと葛藤はかなりある。ただ、おっしゃるとおり、同じ和食でも食べてもらえるような和食というふうに工夫をするということは必要だと思うため、ここにメニューを入れさせていただくのはいいと思う。そこは修正を入れさせていただく。
岡田教育長	結局、和食の方が残るというのは、少し和食と洋食のその辺りの考え方や和食の素晴らしいところを伝えていくような取組をしないと、なかなか解決しない。
藤井課長	単純に減らそうと思えば、洋食を増やせば残菜としては減るが、そこもなかなかできない。
岡田教育長	今、初めてその視点で、そうなのだという気づきがあった。では、少しメニューの見直しについても追記をお願いする。
藤井課長	承知した。

岡田教育長

三浦委員

藤井課長

三浦委員

岡田教育長

倉本委員

岡田教育長

倉本委員

岡田教育長

その他いかがか。

今の話で少し聞いてみたいが、地域差はあるか。この地域は和食が残りやすく、こちらの地域はそうでもないというのはあるか。

地域差というよりは年齢層で、実は、中学校女子はすごく残される。それは、好き嫌いとかというよりもダイエット、太りたくないということがある。給食の量は学年によって違うが、中学生女子、それから男子もダイエットしたいと思っている。中学生は本当に食べる生徒と食べない生徒がいて、部活動をやっている生徒はすごく食べて、食べたくないという生徒は食べなかったりするため、地域差というより、年齢、何かそういう体のスタイルを気にしたず年齢の生徒は残すことがある。

ありがとうございます。

その他いかがか。

26、27ページで、中身ではないが、例えば、27ページの人権同和問題に関する研究集会のところで、評価の中に、最初に学校数の減少のためにという言葉が出てくる。4年間の目標を立てる時に、4年前、5年前に立てた目標が、学校がなくなることによって、到底到達できないだろうという数値目標になってしまっているところが何か所かあるが、それは、ここだけの話ではなくて、それをこのままの数値の設定でいかれるのか。毎回到達しなかったとなっていくのか、途中ででも回数の修正が可能なのか。その辺りはどうか。

全体的なことだが、少し私の考え方というか、私の捉えで説明させていただくと、そもそも教育振興計画というのも全体の浜田市の総合振興計画の流れを受けて作っている。総合振興計画自体は、目標を一度、計画を立てた時に作ると、基本それを追っていく。ただし、年度途中でその目標をもう上回ったような時には、さらに目標を高めようではないかということで、上に目標修正することがある。ただ、学校数が減ったとかこういうような、目標を下げるようなことというのはあまりやらないため、どうしても計画策定時の目標というものを追いながら、その評価をしていくということになろうかとは思う。

という方向性で、一応、統一していくということか。

そうである。基本的には目標を下げるというようなことは、大きな理由がない限りやっていない。学校の減少というのは大きな理由かもしれないが、特段この自己点検・評価の中で見直してま

倉本委員
岡田教育長
各委員
岡田教育長

山口課長

岡田教育長

浅津委員

日ノ原係長

岡田教育長

藤井課長

でやるかというと、そこまでは考えてなくていよいと思っている。

承知した。

その他、いかがか。

特になし。

では、34 ページからに移りたいと思う。34 ページから、家庭教育支援の推進という柱に移っていくため、ここから 41 ページまで、No.16 から 21 までのところで、何かご指摘されるところがあるか。

私から 39 ページのNo.20 の不登校、ひきこもりなどの社会参加・自立に向けた支援の継続の部分だが、実績の中に、今、小学校 2 校でモデル的に取り組んでいる校内フリースクールの記述がないため、やはりこれ現場でかなり評価が高くて、不登校の子どもたちにとって、学校に行くきっかけになっているという高い評価を学校からいただいているため、そこを入れてはどうかと思っているが、どうか。

その部分について、校内フリースクールは、令和 6 年度以降、実際、子と親の相談員事業が 2 校あるが、実質は同じ内容のため、そこの部分は実績と評価に追記して、次回お示しさせていただければと思う。

よろしくお願ひする。

その他はよろしいか。

37 ページの家読のところで、内容のところであるため、今更変えられるものかどうかわからないが、家庭で読書を通じて、家族の心の絆を深めという表現が、パッと読んだ時にわかりにくいなと思った。家庭で読書をする時間を通じてという方が通じやすい気がする。同じように一番下の評価のところも、家族で同じ時間を共有することが大切であるとの関わりが、少し補足説明が欲しいような気がしたが、どうか。

内容の方の話だが、作りとしては、この内容の部分は教育振興計画から基本的には引っ張ってきており、それに対しての自己点検・評価というところで、基本的にはこの内容の部分はあまり手を入れず、暦年で見ても基本的にこの内容の部分は同じかたちのものが入り、目標や実績という部分は毎年度変わっていくという作りにさせていただいているというところが現状である。

評価の中で少し評価を変えるというのは、踏まえて修正ということはできるか。

できる。内容のところ、イメージ的には、家庭での読書を通じ

て、多分そういうニュアンスで、「の」があればよかったですのかもしれない。そのため、下の所、今おっしゃっていただいたような、少し抽象的な表現を具体的なところで補足はできるため、そこは次回、このようなかたちでどうかと提示させていただければと思う。

浅津委員
岡田教育長
各委員
岡田教育長

ありがとうございます。

その他いかがか。

特になし。

では、続いて43ページからに移らせていただきたいと思う。ここからは、社会教育の推進という柱に関してである。少しボリュームが多くなるが、この社会教育に関するところが、図書館サービスも含めて58ページまである。No.22から31までのところで、何かお気づきの点があればお伺いしたいと思うが、いかがか。

三浦委員

51ページ、52ページの社会教育の推進で、51ページのところに、目標のところで、令和6年度目標の社会教育士32名に対して、次のページの一番上の実績に、新規取得2名で累計19名ということで、目標にはなかなか届いてはないという状況だとは思う。評価のところにあるように、地域によって取得者数に差があるということがあると思うが、実際にまちづくりセンターが色々ある中で、やはり社会教育士が多くいるまちづくりセンターの方が、活動が盛んだとか、何かその辺全体を見た時に、肌感覚というか、どういう印象なのかというのを、少し教えていただければと思う。

担当課としていかがか。

岡田教育長
永田担当課長
(代理:岡田係長)

社会教育士がいるセンターといないセンターとで、何か効果というか、そういう違いがあるかというご質問だと思うが、目に見えてはっきりと見えるような、社会教育士がいることのメリットということは、あまり正直そこまでないと思う。ただ、まちづくりセンターも、センターの思いで事業を組み込む時に、社会教育士を取得した際の学んだ経験を生かして、何か助言やアドバイスみたいなものを事業の中に組み込むようなことをしているセンターもやはりあるため、メリットとして、目に見えてはまだないかもしれないが、活用は、取得した人がいるセンターでは活用はされているように感じます。

三浦委員

何かこの配置とかも、こちらはいないので、この人をこちらにみたいなことがやはりあるのか。

永田担当課長

それは、今時点ではないが、今後、令和8年度を目安に、セン

(代理：岡田係長)

ター職員の配置転換というのも少し具体に行っていこうというふうに思っており、その配置転換を行う際に、社会教育士の称号取得した者をバランスよく配置できないかというような検討は行っているが、今時点では配置は行っていない。

三浦委員

岡田教育長

各委員

岡田教育長

承知した。

その他いかがか。

特になし。

では続いて、大きな柱の4番目、生涯スポーツの振興についてである。59ページのNo.32から63ページのNo.35までが生涯スポーツ関係だが、この中身についていかがか。

すみません、スポーツ振興課から少し訂正がある。見返した時に、これは少しおかしいのではないかというような文章があったため、口頭で申し訳ないが、この場で修正させていただきたいと思う。

資料59ページの事業番号No.32、総合スポーツ大会の開催についてである。こちらの一番下の教育委員会の評価というところの文章があるが、この文章の3行目4行目あたりを少し修正させていただきたいと思う。1行目から読ませていただく。目標値である2,400人に対し、約82%の参加者数であった。競技数は昨年より1競技増（サッカー）となり、参加者が増加または維持されている競技も数種目、ここからであるが、数種目あることは評価できるが、総体的に減少傾向である。以下は同じであるが、このように少し修正させていただきたいと思う。

以上である。

おそらく今のは、総体的な参加者の減少が要因だと、それは要因というより、参加者が少なくなったという実績であるため、それを要因と捉えるのではなくて、あくまでも競技が増えたということを評価して、現状としては減少傾向にあるという表現にとどめるという修正であったと思う。よろしいか。

特になし。

その他いかがか。

今のところだが、目標値2,400人というのは、その計画でもう決まっている数字か。

これは、計画期間の4年間の累計が9,600人ということで、これは単年度のため、2,400人ということでこの目標設定させていただいている。

三浦委員	実際のその競技団体の人数とかで積み上げていった時に、そもそもこの 2,400 人というのが、現実的な数字なのか、どうなのかなと少し気にはなった。
松井課長	コロナ前の平成 30 年度でいえば、2,600 人ということで、今の目標よりは多い数字である。コロナ以降も令和 4 年度辺りから 2,000 人前後で推移しているため、そう厳しい、現実と解離した目標設定ではないと思う。
三浦委員 岡田教育長	ありがとうございます。 確かに、ハードなスポーツだけではなくて、軽スポーツだったり、レクリエーション活動だったり、健康増進のためのそうしたことでも踏まえて、全体の人数ということで目標としている。これも下げるということではなく、このままとさせてもらいたいと思っている。
各委員 岡田教育長	その他いかがか。 特になし。 では、続いて 64 ページから、柱の 5 番目、歴史・文化の伝承と創造の項目になる。これは最後まで、少し長いが 64 ページの No.36 から 83 ページの No. 50 までところ全体でお伺いしたいと思う。
山本課長	すみません、文化振興課である。74 ページの No.41 であるが、この教育委員会の評価の部分が、少し表現がわかりにくいため、口頭で申し訳ないが、修正をさせていただく。評価の 2 行目以降で、課題の整理を行うことができたことはというところだが、1 行目から申し上げると、浜田市文化財保存活用地域計画の作成に伴い、伝統文化の現状及び課題の整理を行ったことは、歴史文化保存展示施設における伝統文化の保存伝承事業に反映できるものとして評価できる、と表現を変えさせていただきたいと思う。
岡田教育長 山本課長	もう 1 回、通して読んでもらっていいか。 変わるのが 2 行目の方で、課題の整理を行ったことは、歴史文化保存展示施設における伝統文化の保存伝承事業に反映できるものとして評価できる、というふうな表現に変えさせていただきたいと思う。
岡田教育長	おそらく意図しているところは同じだが、少しわかりづらいということで、今あった表現に変えたいということであった。それを踏まえて、この歴史・文化の伝承と創造に関する部分、何かお気づきの点があるか。
三浦委員	No.36、65 ページの石央文化ホールの管理運営だが、評価のとこ

	ろで、貸館利用の利用者が減であったため、利用人口全体が減少しておりということが書かれている。その貸館利用者が減って、これをまた増につなげたいということではあるが、この減った利用者は、別のところを利用しているのかとか、もうその団体がなくなったのかとか、そういったところがあれば、対策してもなかなか戻ってこないと思ったりして、その辺りの調査とかも必要なのかを感じたところである。
岡田教育長	貸館利用者が減っている原因みたいなことを分析ができるのかどうかということだが、いかがか。
山本課長	貸館利用者が減っている理由としては、全てではないが、一つの理由として、例えば、文化団体がそういう発表に大ホールを今まで使っていらっしゃったが、少し大きすぎるため、大ホールは、今 1,100 から 1,200 人ぐらい入るが、規模的には 200 人や 300 人がいい、自分たちの発表に合っているというところで、市内のそういった自分たちの望む希望の施設に利用を変えられたというところは一つ要因としてあった。そのため、その辺はそういった文化団体が、より大きい周年事業であったり、そういったイベントの規模に合わせて、また使っていただくようなお声がけなどはできると思う。
岡田教育長	よろしいか。
三浦委員	承知した。
岡田教育長	その他いかがか。
各委員	特になし。
岡田教育長	では、85 ページからは、この教育振興計画の目標達成度についてということで、数値目標の実績一覧を掲げているが、この内容について、ご質問等あるか。
各委員	特になし。
岡田教育長	では、今いくつか修正箇所についてご指摘いただいたが、それらを踏まえた上で、この報告書の冒頭にあった総評部分に変更を加えるような必要がもしあれば、お伺いしたいと思う。特段お気づきになられたようなことはないか。
各委員	特になし。
岡田教育長	ないようであるため、一応この自己点検・評価報告書について、教育委員方に色々と議論をしていただいた。では、修正点などを踏まえて今後の取り扱いはどうなるか。
日ノ原係長	今後については、冒頭申し上げたとおりである。今日のところ

で、字句等がはっきりしない部分もあるため、事務局の方で改めて修正をさせていただいたものを送付させていただく。各委員でご確認いただき、締切前のところでご意見等をいただくかたちで、まとめていきたいと思っているため、よろしくお願ひする。

岡田教育長

では改めて、この会の中でということはないため、今いただいた修正については、事務局の方で修正させていただき、また委員方にお送りしたいということである。お気づきのこと等があれば、またその時にお伺いする。

(2) 浜田市教育委員会ボランティア表彰について（資料 2）

山口課長

資料 2 をご覧いただきたい。令和 7 年度浜田市教育委員会ボランティア表彰である。

平成 23 年度から表彰しており、この表彰の目的が、子どもの安全確保や防犯に関するすぐれた活動を行った地域活動団体及び個人に対して、その活動を表彰するもので、この表彰により、地域の活動が推進されることを目的としている。

今年度、学校長から推薦があったため、学校教育課から 1 団体、個人 2 名を推薦表彰していきたいと思い、今回お諮り申し上げる。

まず、団体として、松原小学校にある松原っ子みまもり隊、隊長は天羽貴彦様の 1 団体である。平成 19 年から活動されているが、積極的に朝の登校または下校の見守りをしていただいている。見守りに当たり、学校ともきっちと情報共有しながら、通学路の危険箇所も併せて情報共有していただき、子どもの安全確保に努めているだいている。

個人については 2 名、それぞれ二人とも美川小学校である。お一人が横坂秀文様、もうお一人が横坂加奈子様である。お二人とももう 10 年以上、特に登校時の見守り活動をしておられる。且那様については、学校前の横断歩道の見守りを中心に、奥様の方も献身的に見守りを長年していただいている。この方々を教育委員会として表彰したいと思うため、どうぞご審議のほどよろしくお願ひする。

本日審議いただき、了解を得れば、10 月末の段階で各校に教育長が出向いて表彰したいと思う。

以上である。

岡田教育長

ただいま、毎年行っている浜田市教育委員会のボランティア表彰者について、1 団体と 2 名の個人の方の提案があった。

	何かご質問等あるか。
各委員 岡田教育長	特になし。 それでは、ないようであるため、事務局からの提案どおり、この1団体、それから2名の個人の方を表彰対象者とするということで、ご承認いただけますか。
各委員 岡田教育長	全会一致で承認 ありがとうございました。
(3) 浜田市立小中学校における医療的ケア実施に関するガイドラインについて (資料3)	
日ノ原係長	先に私から少し説明させていただきたい。この議題3については、8月の教育委員会の定例会で、一度お諮りをさせていただいたものである。その中で修正をいただき、それをまた修正を送らせていただくかたちで、当初は承認をいただく予定であったが、その修正の部分のところと、また岡山委員も8月末で教育委員を退任というところで、このタイミングで間に合わず、改めて、今回修正したもので、提案をさせていただきたいというものである。
岡田教育長 山口課長	補足の説明はあるか。 修正箇所の大きい1点だが、前回、杉野本委員からご指摘いただいた文言の整理で、目次のスペースの問題、1ページ以降は、語尾の表現等の統一を図った。私が前回答えた中で、ページでいうと4ページと5ページになるが、特に医療的ケアの実施体制の中で、学校の担当する範囲はどこまでかというご指摘があった。再度整理して、4ページの(2)学校の範囲だが、5ページにある校長・教頭から下の看護師等までが実際医療従事する部分である。ここまでが学校の範囲というかたちで、以下、主治医、学校医、保護者は別立てというかたちで、整理させていただいた。あと、様式等については、ご指摘いただいた文言の指摘部分を修正させていただいた。 以上である。
岡田教育長	一度お諮りした内容について、ご指摘の箇所を修正して再提案をするということだが、内容を見られて皆さんいかがか。
各委員 岡田教育長	特になし。 特にないようであれば、今回ご提案したガイドラインをこのとおり承認いただけますか。
各委員	全会一致で承認

岡田教育長

ありがとうございました。

3 部長・課長等報告事項

草刈部長

令和7年度一般会計補正予算（第5号）説明資料（資料4）

資料4をご覧いただきたい。令和7年9月の浜田市議会定例会の補正予算の説明資料で、一般会計の補正予算第5号である。編成の内容のところで、今回の補正については9月補正予算編成以降に生じた経費について追加等を行うものである。

予算の規模だが、表のところに補正額2,022,030千円の追加で、補正後の予算額は45,402,992千円となる。

ページを開いていただき、下に記載のページでいうと5ページの10教育費についてである。教育費については、14,538千円の追加で、事業としては3事業である。17番、学校支援員配置事業だが、長浜小学校に医療的ケアが必要な児童の訪問看護委託料の追加として、1,791千円ということである。財源は、ふるさと応援基金を充てている。

18番の緊急校務支援員配置事業だが、緊急校務支援員を追加で、県10分の10補助というかたちで配置をする。当初予算時では、専任4名合計5,184時間を想定していたが、補正後では、専任5名、兼任26名ということで、合計10,820時間分が確保できた。プラス5,636時間の追加というかたちである。それが5,875千円の事業費となり、財源は県の補助金10分の10である。

19番の運動施設改修事業だが、陸上競技場で令和6年度に導入した写真判定装置の効率的な運用と、大会記録の処理等のデジタル化を図るため、新たな記録処理システムを導入するものである。令和8年度以降に陸上大会の記録を公認記録とするためには、このシステムが必要であるため、今回追加で補正を計上したところである。6,872千円ということで、財源はふるさと応援基金を充てるかたちになる。

こちらが、一般会計補正予算（第5号）の教育費に関連する部分である。

個人一般質問通告一覧（令和7年6月浜田市議会定例会議）（資料5-1）

令和7年6月定例会議答弁準備原稿 個人一般質問用（資料

5-2)

続いて、資料 5-1 と 5-2 である。個人一般質問の通告ということで、今回、総務文教委員会の代表質問はなかったため、個人一般質問のみであった。

個人一般質問は、9月2日から3日の2日間で行われた。質問の全体が12名で101項目あり、教育委員会関係は7名の27項目となっている。

今回の質問を簡単にいうと、こども計画に関するところで、幼児教育センター3年目の取組ということと、石見神楽の関係で、文化の継承というようなところでの課題、それから、先進地での取組、これは「みやざきの神楽サポーター制度」に関する取組について聞かれている部分と企業・団体による支援の可能性というようなところで、浜田市において企業・団体と連携した新たな制度設計について問われている。また、石見神楽の文化財指定に関する現状、文化財指定されていない理由、文化財指定を受けることのメリット、文化財指定に向けての取組などを聞かれている。

それから、旧雲雀丘小学校の跡地に関する利活用の基本方針を聞くということと、現在、地元民に限定されているといった、制限に関する市の対応方針、今後の公共施設、地域の拠点としての再整備・用途変更しないことに対する考え方を聞かれている。

浜田市の歴史文化に関しては、現在検討をしている市誌の概要と文化協会の会員数の推移とその評価、スポーツ振興に関しては、各競技団体の構成員の推移とその評価、市のスポーツへの取組として市民スポーツ参加の評価に関すること、国民スポーツ大会に向けた競技場の整備等に関する質問があった。

子どもの声でつくる授業改善プランに関しては、小学校での実施回数や実施の内容、成果の受け止め、課題の受け止めなど、それから保育園・幼稚園と小学校との連携体制については、連絡協議会の体制、今後の方向性など。それから、雷に対する安全対策として、雷探知器の整備の状況や講習会等の状況に関する質問、また、石見神楽の伝承・拠点整備に関する課題について、それから市長に対して、今後の石見神楽振興に対する後任に引き継ぐためのメッセージについてというような内容の質問があった。

岡田教育長
各委員

藤井課長

岡田教育長
各委員

山口課長

個別具体的なものについては、資料 5-2 の方に答弁書が記載してあるため、後ほど細かく確認していただければと思う。

資料の 4 と 5 については以上である。

ただいま、9 月議会の補正予算と一般質問の内容について説明があったが、この件に関して何かご質問等あるか。

特になし。

行事等予定表（資料 6）

それでは、資料 6 を説明させていただく。行事等予定表である。9 月 30 日から 10 月 31 日までの行事予定となっている。特に委員方にご出席をお願いしたいところについては、丸印をつけています。本日もご参加をいただいた教育委員会学校訪問が 9 月 30 日、10 月 2 日、10 月 10 日、10 月 14 日、10 月 28 日となっているため、皆様お忙しいかと思うが、よろしくお願ひする。

10 月 8 日の浜田市中学校駅伝競走大会と、10 月 15 日の浜田市小学校体操競技大会についてもご参加をお願いしたいと思っている。こちらについては、後ほど詳細の方をご案内させていただく。

お知らせは以上である。

行事等の予定について、ご質問はあるか。
特になし。

島根県中学校総合体育大会及び全日本吹奏楽コンクール島根県大会等の成績について（主に 3 位以上及び中国大会・全国大会出場者）（資料 7）

資料 7 をご覧いただきたい。島根県中学校総合体育大会、全日本吹奏楽コンクールの島根県大会等の成績について報告する。

県大会については上位 3 位以上で、中国大会、全国大会出場というかたちで表を作成しているため、ご確認いただきたい。体操競技、柔道、裏面に陸上競技、ソフトテニス、卓球、水泳競技、吹奏楽、これらの競技及び部活が、県大会以上の大会に出場したということでご理解いただきたい。ここに載っていないバスケットボールやバレーボールは、県大会に出場していないということである。

体操については、県大会の選考を経て、中国大会へは 4 名参

加したが、団体は参加がなかったということである。全国大会出場はなかった。

柔道については、県大会を通じて中国大会へ 5 名程出場し、2 名が 8 位入賞となっている。

裏面をご覧いただき、陸上競技である。中国大会は、多くの選手が出場している。陸上の場合、全国大会はかなりハードルが厳しく、標準記録突破、または大会で 6 位以内という条件があるが、三隅中学校の砲丸投げの選手が 1 名、全国大会に出場した。ソフトテニスについては、第一中学校の個人（ダブルス）が、全国大会に出場している。卓球についても、第一中学校の女子生徒がシングルスで全国大会に出場している。

水泳だが、多くの選手が中国大会までは出場しているが、これも全国大会の出場が非常に少ないということで、全国大会はなかなか難しいというところである。

最後に吹奏楽だが、浜田東中学校が小編成の部にエントリーした。県の大会でも金賞、中国大会でも金賞ということで、久々の中国大会での金賞というかたちになる。特に、県大会での金賞は久々であった。小編成の部は、全国の大会はなく、中国大会止まりになるため、これが最後というかたちで、吹奏楽については、今後、マーチングの方にエントリーをしているため、また下期の方で報告させていただければと思う。

以上である。

ただいま、今年の中学校の総合体育大会であるとか、全日本の吹奏楽コンクールの結果について、担当課長から説明があった。それぞれ頑張って中国大会に出場し、その中の数人は全国大会に出場したということである。これがまた更なる励みになると嬉しいと思う。

ご質問等あるか。

特になし。

岡田教育長

各委員

石橋室長

第 5 回（9 月）市校長会資料（資料 8）

9 月の校長会で話したことを報告する。資料 8 をご覧いただきたい。話した内容は、全国学力・学習状況調査結果について、いわゆる「椅子の問題」について、AI ドリルの活用状況について、「たつじんテスト」について、「小学校理数教科指導力向上プロジェクト」について、英語教育から、の 6 点である。

まずは、全国学力・学習状況調査結果についてである。これについては、8月の教育委員会定例会で報告した「令和7年度全国学力・学習状況調査結果（概要）」の中から、各教科の平均正答率や成果と課題、今後の指導のポイント、今後の取組の方向性に絞って話した。

まずは、前回の定例会で結果概要を報告した際に、杉野本教育委員が、ぜひ校長先生方を通して学校の先生方に伝えてくださいと言われたこと、「国語の勉強は好きですか」「算数・数学の勉強は好きですか」「理科の勉強は好きですか」という質問に、多くの子どもたちが肯定的に答えており、その割合もだんだんとよくなっている。これは、先生方の日々の取組の成果で、大いに評価すべきところだ。このことを、授業をしておられる先生方にお伝えくださいと言われたため、校長先生方から先生方に伝えてもらうようお願いした。杉野本委員、大事な視点を教えていただき、ありがとうございました。

実は、この定例会の頃、県教育委員会の野津教育長より「全国学力・学習状況調査の問題」を教員みんなで解いて分析したかを、県の教育長会議で報告するようにと言われていた。そこで、問題をみんなで解いたかどうか、各学校に問い合わせてみた。各校の回答は、みんなで解いた、分担して解いた、一部の教員が解いたと様々であったが、どの学校も問題を解いて分析し、今求められていることを共有し、改善策を考えるといった「マネジメント」を行っておられることが改めてわかった。詳細は、資料A-1をご覧いただきたい。全国学力・学習状況調査を授業改善に生かす方策等についてもしっかりと考えておられた。各学校の今後の取組の参考にしてもらうために、分類整理したものを資料A-1として校長会で配った。ある小学校では、学力向上担当の先生が、学力調査の問題を分析し、分かりやすくまとめて提案されたと聞いたため、校長先生に許可をもらい資料A-2としてお配りした。資料A-1と同様、今後の取組の参考にしてくださいと校長先生方にお願いした。

なぜ、県の野津教育長が「学力調査の問題をみんなで解いたか」と声を大にして言っておられるのか、その理由を、今年度から実行されている「島根教育ビジョン」の「第2期しまねの学力育成推進プラン」を基に説明した。

結果の公表については、昨年と同様のものを浜田市教育委員

会の考えとして、次の 2 点を特に各学校にお知らせした。1 点目、各学校で行う自校分の調査結果の公表は、公表内容・方法等教育上の効果や影響等を考慮して、適切なものとなるよう、判断して行ってください。2 点目、インターネットを利用した数値の公表は、データが集めやすくなり、学校が序列化されたり情報が一気に拡散したりするおそれがあるため、公表する場合は紙媒体または口頭で行ってください。この 2 点を各学校にお知らせした。全国学力・学習状況調査結果については最後になるが、文部科学省から中学校の校長先生宛てに、全国学力・学習状況調査の英語の CBT 化に関して通知が出されていることをお伝えした。

来年度より、中学校英語の調査が CBT で実施される。1 点目として、英語の授業では、今後一層、文部科学省の CBT システムである MEXCBT の操作に習熟しておく必要があること。2 点目として、全国学力・学習状況調査対象学年の生徒だけでなく、全生徒が一人一台端末、マイク付きイヤホン等の使用も併せ、日常的に使い慣れておく必要があること。3 点目、令和 8 年度全国学力・学習状況調査（中学校英語）の際、機器操作等に慣れていない状況は、英語の調査を受ける前の段階で生徒がつまづくことにつながる恐れがあるという 3 点である。

令和 9 年度からは、小学校でも CBT で実施されると言われているため、この 3 点は小学校にも求められていると考えてくださいということも伝えた。

アナログからデジタルへと時代が動いていることを実感している。

続いて、2 点目、いわゆる「椅子の問題」についてである。昨年度の小学校学力調査問題の中で、授業改善のヒントがある問題として、県教育委員会が注目している関係で、今年度の取組状況を聞かせてもらった。正答率の高かった学校の校長先生に、何か秘訣があるのかを訪ねてみた。どれもなるほどと思い、まとめてみたため、こちらも自校の取組の参考にしてくださいと伝えた。

続いて、3 点目、AI ドリルの活用状況についてである。夏休み前に導入した AI ドリルだが、それぞれの学校の実態によって活用の様子は違うが、早速しっかりと活用していただいているようである。8 月 22 日には、AI ドリル基本研修を行い、講

師のベネッセコーポレーションの方に、具体的な活用法を教えていただいたり、質問に答えていただいたりした。昨日は、この基本研修を受けられた浜田東中学校の先生と ICT 支援員が一緒になり、AI ドリルの活用法の校内研修会を実施された。このように、多くの学校で AI ドリルの活用を進めていただいているようである。9 月初めから認知特性を図る「まるぐランド」も使えるようになった。10 月 1 日からは、ネットワーク環境のない家庭でもできる「ドリルパークのオンライン版」も使えるようになる。学力向上のために、学校を上げてどんどん使ってくださいと繰り返しお願いした。

続いて、「たつじんテスト」についてと「小学校理数教科指導力向上プロジェクト」についてである。この二つは、県教育委員会が力を入れている事業である。浜田市が力を入れている AI ドリルと重なる部分があり、混乱された先生も多いのではと思い、改めて校長先生方に話した。

最後に英語教育についてである。浜田教育事務所から連絡があったもので、授業改善の指標が示してある。特に、授業者は授業を英語で行うことを重視していることを、担当の先生に伝えてくださいとお願いした。

以上、9 月の校長会や教頭会で校長先生や教頭先生にお伝えした内容の報告を終わる。

説明があった浜田市の学力向上に関する報告についてだが、ご質問等あればお受けしたいと思う。

いかがか。

AI ドリルの活用状況について、使用状況が出ていたが、小学校のよく使った、使わなかつたという比率を見ていくと、小学校の低学年は、まだ多分扱うのが難しいのかという部分があり、使わないという状況もあると思ったが、中学校でいうと、夏休み前までのところで使わなかつたというのが半分ぐらいあるが、その辺りの理由というのは何か掴んでおられるか。

AI ドリルを使えるようにしたのは、7 月 10 日頃であった。そこから、夏休み前にある程度の使用方法を児童生徒の皆さんに習得してもらわないと、なかなか持ち帰ってもすぐに活用できないため、その部分で、わずか 10 日あまりの時間の中で、利用方法を生徒に伝えられた学校と、それは 2 学期に回そうというふうに考えておられた学校の違いが、一つはあると思う。

岡田教育長

倉本委員

石橋室長

倉本委員	使われたところで、時期的に本格的にしようというのはなかなか難しい時期だったと思うが、もし結構使ったというところがあるとしたら、先生方の反応というのは、何か聞いておられるか。
石橋室長	やはりよく使っておられる学校の先生は、これはとてもいいという感想をお持ちのようである。使っておられないところについては、どうやって使うのだろうというドキドキ感が拭いきれない、そんな感じだと思う。
倉本委員	ありがとうございました。
岡田教育長	その他いかがか。
浅津委員	私も AI ドリルのことだが、タブレット自体は、今 22 時まで使える状態だと思うが、これを伸ばして欲しいという話とかは現場からは出てないか。
石橋室長	それについては、まだ私のところには届いていない。また、改めて聞いてみたいと思う。
岡田教育長	学校教育課の方にも届いてないか。
山口課長	まず、この GIGA 端末が入った時に、21 時までのセキュリティを受けることであったが、それから要望を受けて今 22 時までとなっている。明日以降、校長会、教頭会がある。中学校は受験があつたりするため、また現場の声を聞いてみたい。
浅津委員	承知した。
岡田教育長	杉野本委員お願いする。
杉野本委員	7月9日導入ということから、夏休みまで本当に短期間の中で、学校が使えるようにということで、準備された成果がやはりここに出てきていると思う。そこまで室長を中心に準備されたと思うが、大変だったと思いながらも、現場も応えてくれていると感じて大変嬉しく思った。先ほどの使われた先生の感想もあったように、使った方こそこれはいいというふうな部分がどんどん広がっていけば、さらによりよい活用に繋がっていくといいというふうに思った。
	それから全国学力調査について、国語、算数、数学、理科についての学習意欲については、しっかり伝えていただき、ありがとうございました。先生方が元気になるように勇気づけていただくと、大変ありがたく思う。
	以上である。
岡田教育長	その他はよろしいか。

少し私から、この件について補足させていただきたいが、8月27日に、島根県と市町村の教育長が集まった会議があり、そこで学力育成も一緒に検討することもした。それで全国学力テストの結果を受けて、各市町村で、どういう取組をしていったかということを情報交換しようという場だったが、そこで、野津教育長から、テスト問題は本当に、全員の教員で解いたのか。解いてみないと、その対応などもわからないのではないかというようなご指摘をいただき、なおかつ、その分析をした結果、どういう対策をとるかということは、抽象的ではなくて、具体的なものにするようにというようなご指導をいただいたところであった。

それで浜田市でも、各学校でテスト問題を本当に解いたかどうかということも調査をした結果、全校の教員で解くということや、あるいはもう初めからこの問題を分担して、先生を決めてやっておられる学校もあり、基本的には私はすべての学校で、全員で解いたり分担して解いたりして、その対応策については検討しておられると思っていたため、浜田市のそうした取組と、それから、具体的な今後の学力向上に向けては、要約学習とAIドリルの活用に力を入れていくということを紹介させていただいた。

この件はよろしいか。

特になし。

各委員

松井課長

第19回浜田市総合スポーツ大会について（資料9）

それでは、第19回浜田市総合スポーツ大会について説明させていただく。資料9である。

10月13日（月・祝日）の午前8時30分から、島根県立体育館にて、第19回浜田市総合スポーツ大会総合開会式を開催する。この総合スポーツ大会の、各競技団体の大会予定は、以下の表に記載のとおりとなっている。全部で20競技開催し、約2,000人の方に参加をしていただく予定となっている。

簡単だが、説明は以上である。

この件について、ご質問はあるか。

特になし。

岡田教育長
各委員

山本課長

第3回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の会議結果

について（資料 10）

それでは、資料 10 をご覧いただきたい。第 3 回石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会の状況について報告をする。第 3 回の検討委員会を 8 月 8 日、中央図書館にて開催した。議題については、協議事項として、保存・伝承拠点のあり方と必要な機能の整理について、それと具体的な取組方針や実現手法などに関する意見交換を行った。①の保存・伝承拠点のあり方と必要な機能の整理については、これは第 2 回の会議の整理と確認を行ったものとしている。②の方は、そちらで必要な機能ということを整理したが、その機能が、この下にアからカまであるが、その機能についてそれぞれ深掘りを行ったというような状況である。この深掘りについては、各機能ごとに、グループに分かれて意見交換を行ったところである。その中で例えば、展示機能については、内容的には小学校 6 年生が理解できる内容と幅広い年齢が理解できるのではないかとか、教育・普及については、学校との連携、子ども向けの取組については、教育委員会である程度整理が必要であったり、また神楽好きの子どもの拠り所であることを目指すべきではないかといった意見をいただいたところである。

第 4 回については、実はすでに終わっており、9 月 16 日に第 4 回の会議を開催している。まだその結果が整理できていないため、今日の会では報告できないが、第 4 回の会議では、第 3 回のグループワークを踏まえて、機能ごとの深掘りした内容の具現化の方向性や意見手法について、今度は全体で意見交換を行ったところである。次の会議の第 5 回については、10 月 16 日を予定している。

簡単ではあるが、説明は以上である。

ただいま説明があった件について、ご質問はあるか。
特になし。

4 その他

(1) その他

岡田教育長

日ノ原係長

岡田教育長

事務局からその他何かあるか。

特になし。

その他のところで、委員方からご報告や質問があればお願ひする。

各委員 | 特になし。

次回定例会日程

定例会 10月28日（火）13時00分から
浜田まちづくりセンター1階 第1、2研修室

次々回定例会日程

定例会 11月28日（金）14時30分から
浜田市立中央図書館 2階多目的ホール

15：34 終了